伊豆八十八札所巡礼報告書
２０２１年１２月０８日（水）雨～曇　　文・写真 後藤

巡路　１４番・慈光院７：３４～１５番・高岩院８：０３～２０番・養徳寺９：２５～１６番・興聖寺１１：０９ーバスー三島スプリング・湯郷（昼食会）１２：００～１６：００
距離　約１８ｋｍ
参加　１１名

前回最終の１４番・慈光院から出発。朝は冷たい雨だった。ただ、完全装備で雨は気にならない。寒いので快適。高岩院着。境内に大きな銀モクセイがある。花を一度見たことがある。銀は珍しい。

冷たい雨

銀モクセイ

住職の話では、年に３回咲く年もあるという。正し、３回咲く場合は、全てが開花でなく、部分的に交互に咲くだった。お勤めを終わり、帰ろうかと思ったら、やおら住職が一本の掛軸を持って来た。

開口一番、「今日は何の日か知っているか？」という。掛軸には、何やら難しい文字と絵が描かれていた。一同、ポカンと口を開け誰も応えられない。強面の住職は、「こんな大切な日を知らない巡礼なんて、ダメだ」と怒った。

１２月８日は、お釈迦様が悟りを得て山を下った「成道会（じょうどうえ)」だった。誕生とか亡くなったのは分かっていたが、それは知らなかった。で、私が難しい文字は何と読むのか、意味は？と聞いたら、住職は、何も応えられなかった。ググググ・・・。住職なら、そこまで理解と思ったが・・・。おあいこでした。

寺を出ると雨は上がっていた。予報通り９時だった。Ａさんと、熱海と三島の天気の違いなどを話しながら進む。右手に小学校の遠足で上った「大仙山（だいせんざん・１６７ｍ）があった。その時の遠足の写真は、まだ残っている。畑毛（はたけ）を過ぎ、２０番・養徳寺着。大きく立派な寺。寺には不思議が一つあった。１５番・高岩院の次が２０番のこの寺。次が１６番・興聖寺。

何故１５番と１６番の間に２０番があるのだろうか・・・。分からない。

成道会掛軸

お釈迦様が悟りを得た「成道会」とは・・・。

　１２月８日は、お釈迦さまがお悟りを開かれた事をお祝いする「成道会」の日です。お釈迦さまはシャカ族の王子として生まれ育つ中で、何不自由のない恵まれた生活を送っていました。しかし、ある時「人は生まれてきた以上、必ず年老いてゆくし、また病気にもかかる。

　そして何より死というものは誰にでも必ず訪れる」という自然の摂理に気づかれます。この逃れようのない苦の現実をいかに受け止め、解決することが出来るのか。お釈迦さまはその答えを求めて２９歳の時に、王子の地位も、約束された将来も、恵まれた財産も、そして家族すらもすてて出家の道へと入られたのでした。

　その後２人の修行者のもとで禅定を学び、また６年にもわたる苦行を続けられるのですが、この生活ではどうしても、本当の意味でのこころの安らぎを得ることが出来ませんでした。お釈迦さまは心と体の関係を「琴」にたとえて考えました。

　「琴の弦は、緩んでいては良い音色を奏でることは出来ない。これは欲望に自らをまかせた生活である。ここに本当の安らぎはない。しかし、弦は張り過ぎると切れてしまう。それは自らの命を失うような苦行の生活だ。ここにも、本当の安らぎは存在しない。」

　欲望に任せた自堕落な生活でも、命を失いかねない苦行でもない「ちょうどいい張り具

合」にこそ、本当の安らぎがあるのだと感じたお釈迦さまは、苦行を離れ、身体を癒し、菩提樹の木のもとで坐禅に入りました。そして一週間の後、ついにお悟りを開かれたのでした・・・ネット

紅葉

養徳寺

函南・平井の養徳寺は、１５番・高岩院と１６番・興聖寺間にある２０番の寺。普通、このようなことはない。四国でも、このような例はない。６番札所・金剛寺にあった、明治初期の伊豆八十八札所版木を見ると、既に２０番は養徳寺になっている。

２０番・養徳寺が他所にあって、平井に越してきたは考えにくい。だとするともともと伊豆札所でなかった養徳寺が、何らかの事情で、２０番札所になったのだろう。

寺の歴史は意外と分かり難い。住職は変わるし、資料も少ない。以前、チラッと聞いた話では、元々、２０番は三島広小路の国分寺ではなかっただろうかの説。

現在、広小路の蓮馨寺（れんけいじ）は１９番。そう考えると、国分寺が２０番だったとしても不思議でない。そして国分寺が廃寺となり、２０番の番号だけが、養徳寺に指定された？

そんなこんなで寺を後にした。寺の西には「天地神社」がある。境内に樹齢８００年の

看板

奥が泰山木

天地神社の大楠

巨大な楠がある。ブラブラ下って１６番・興聖寺に向かった。興聖寺まで小一時間、案外遠かった。

また、付近は伊豆縦貫道などで、すっかり昔の面影が無くしてしまった。寺前で民家に看板があった。家主も丁度出て来て、看板の説明をしてくれた。看板には、

「北を見て下さい。母屋の横の大きな木は、日本一古いタイサンボク（泰山木）です。フランク・ピアース１４代アメリカ大統領が安政六年（１８５７年）徳川将軍家に贈った６本の内の１本です」

とあった。

当主は、木の近くまで呼んで丁寧に説明してくれた。見た所、それ程巨大ではない。泰山木は成長が遅いのだろうか。

興聖寺に入る。大きな寺でない。寺には、有名な「マリア観音像」「鹿の襖絵」がある。マリア観音は、江戸時代キリスト教がご法度だった頃、仏さまにマリア様を重ねて、信仰の対象にしたという。

お勤め後、住職が見えた。この方は、若く独身。電話対応が素晴らしく温かい。声もイイ。お経を聞きたい。で、お願いしたら、「般若心経」を唱えてくれた。ちょっと速く高い声だったが、やっぱり本物のお経は素晴らしい。

お勤め後、お話。高岩院の成道会の話をしたら、笑っていた。ただ、ここにも同じような、絵のない掛軸が掛かっていたが、高岩院のものは、「素晴らしい、立派」だと話していた。

今日は、ここで終了。案外疲れた巡礼だった。

成道会掛軸

養徳寺

興聖寺住職